

Japan AWS Top Engineers & 認定スクラムマスター 監修

AI駆動型開発 実践プログラム

— AWS × GitLab × スクラムで実現する —

AIが開発を主導する時代へ。3日間+6週間で、AIと協働して自走する開発体制を構築します。



なぜ今、AI駆動型開発が求められるのか？

多くの企業は、AIを「道具」として部分的に使う段階（Level 1）に留まっています。

AI活用が属人的

個人のスキル依存で、組織として再現できない

生産性が頭打ち

委託費用は増加するが、開発スピードは上がらない

セキュリティとの両立

AIにコードを任せることへの統制・ガバナンスの不安

AI進化への追従

AI技術の急速な変化に、組織がキャッチアップできない

本プログラムは、AIがSDLC全工程を主導する **Level 2 — AI駆動型開発** への転換を実現します。

本プログラムが実現する「AI駆動型開発」

Level 1 : AI-Assisted

多くの企業の現状

- AIをコーディング補助として部分的に利用
活用は個人スキル依存・属人的
人がコードを「書く」ことが中心



Level 2 : AI-Driven

本プログラムが到達する段階

- AIがSDLCの全工程を主導
人はレビュー・判断・方向づけに集中
安全・統制された組織の仕組みとして定着

さらに MCP (Portable Skills) により、スキル定義の更新だけで AI 技術の進化 (Level 3) にも自動追従します

。

プログラムの進め方

STEP 1

現状分析・ゴール設定

事前

開発体制・AI活用状況・セキュリティ要件を分析し、到達ゴールを設定。プロトタイピングの計画を立案します。

STEP 2

座学&ハンズオン

3日間 / 定員5名

AI駆動型開発の全体像、AWS Well-Architected、GitLabによるSDLC管理、AI協働のスクラム運営、MCP・DevSecOpsを習得します。

STEP 3

プロトタイピング伴走

6週間

AWS Top Engineer／GitLab PSE／認定スクラムマスターが伴走。実業務テーマでMVPを開発し、AI協働の開発スタイルを定着させます。

→ AIと協働して開発を自走できる体制を構築します

座学&ハンズオン 3日間カリキュラム

DAY 1

全体像 + AIが安全に動く基盤

- オープニング（現状分析・ゴール設定）
- AI駆動型開発の進め方ー協働の基礎
AI駆動型開発プラットフォーム概論（AI進化／MCP）
AWS Well-Architected 概論
GitLab 基本操作WS

DAY 2

スクラム実践 + SDLC管理

- AI駆動型スクラム実践WS（
Inception Deck／USM／MVP）
- AI駆動型スクラムイベント
GitLabによるSDLC管理WS（スクラム運用／Tips）

DAY 3

AI駆動型開発の実践（SDLC × AI）

- DevSecOps（AI生成コードのセキュリティ自動化）
- GitLabによる運用管理（監視／インシデント）
AI駆動型開発の実践 フルWS（SDLC × AI統合）

プロトタイピング伴走（6週間）

実業務テーマで MVP をスプリントで開発し、AIと協働する開発スタイルを定着させます。

S0	S1	S2	S3	S4	S5	Release
開発準備・体制 立ち上げ	AI駆動の設計・ 実装	コア機能の実装	セキュリティ組 み込み	機能拡張・UI実 装	統合テスト・改 善	デプロイ・振り 返し

※本スケジュールは一例です。実際の開発内容とスケジュールは、お客様の業務課題やニーズに応じて柔軟に設計します。

開発体制

AWS Top Engineer／GitLab PSE／認定スクラムマスターが、スクラムマスター兼テックリードとして伴走。スプリント5回分を目安に、実業務テーマの MVP を開発します。

支援により期待できる効果（1/2）

Before

AIを部分的に使うが、活用は個人スキル依存で組織として再現できない



After

AIがSDLC全工程を主導し、人間はレビュー・判断に集中する Level 2 の開発体制を確立

Before

AIに開発を任せたいが、セキュリティ・ガバナンスへの不安で踏み切れない



After

CDK Construct と CI/CD（SAST／DAST／Secret Detection）で AI生成コードを自動検証する基盤

Before

委託先依存で内製化が進まず、要件変更への対応も遅い



After

情シス／DX 部門が PO として直接意思決定し、スプリント単位で要件を反映できる体制

支援により期待できる効果（2/2）

Before

AWS／GitLab を使ってはいるが、Well-Architected・スクラム運営が形骸化



After

AWS Top Engineer／GitLab PSE／認定スクラムマスター監修の、統合された型を導入

Before

AI技術の進化が早く、組織がキャッチアップできない



After

MCP（Portable Skills）により、スキル定義の更新だけで AI 進化に自動追従

AI駆動型開発プラットフォームと実践プログラムで、AIと協働して自走する開発体制を実現します。

会社概要

会社名	株式会社キャラウェブ
所在地	〒110-0005 東京都台東区東上野4-12-1 K.Tビル4階
設立	平成10年3月26日
資本金	7,161万円
従業員数	25名
売上高	6,833百万円（2025年7月期）

事業内容

クラウドパートナーグループ

AWS専門エンジニアリング／AWS請求代行／GitLabライセンスリセール・導入支援・運用支援

コンテンツグループ

電子書籍配信・ライセンス管理

パートナー認定・資格



GitLab
**Select
Partner**



GitLab
**Professional
Services Partner**



GitLab Select Partner / Professional Services Partner /
AWS Advanced Tier / ISO 27001

監修者・実績

クラウドパートナーグループ 部門長

中山 桂一

事業責任者 / 副部長

主な実績

2024 / 2026 Japan AWS Top Engineers
AWS Community Builders (Serverless)
2020-2022 APN AWS Top Engineers
Serverlessconf Tokyo 2017 / 2018 優勝
認定スクラムマスター / GitLab PSE

他社にない強み

サーバーレス × GitLab の実践知

AWS Lambda黎明期より10年間、サーバーレスに特化した国内屈指の実践知

DevSecOps 全11カテゴリを実践

GitLab DevSecOps を自社で網羅的に活用。机上の空論ではない現場知見

伴走型による確実な内製化支援

認定スクラムマスター監修の伴走で、内製化イネーブルメントを実現

GitLab × AWS 認定資格保有者多数

Sales Accreditation 6名 / SA Verified 4名 / PSE Certified 3名

お問い合わせ

AI駆動型開発の第一歩について、お気軽にご相談ください。

株式会社キャラウェブ | クラウドパートナーグループ

Web cloud-partner.jp

Mail inquiry@cloud-partner.jp

Tel 03-6670-2560

GitLab Select Partner / Professional Services Partner / AWS Advanced Tier Services Partner / ISO 27001